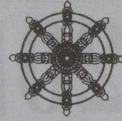


全仏

ZENBUTSU



444

仏暦2541年12月 (1998年)
財団法人 全日本仏教会
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



第20回 WFB 世界仏教徒会議開会式 (関連記事 2 頁～ 4 頁)

第20回 WFB 世界仏教徒会議
仏教とマルチメディア

WFBB世界仏教徒会議 第20回シドニー大会



南天寺本堂前の全日本仏教会代表団

WFBB（世界仏教徒連盟、本部タイバン
 コク）世界仏教徒会議が十月二十九日から十
 一月二日の日程で、オーストラリア・シドニ
 ー郊外ウーロンゴンの仏光山南天寺で開催さ
 れた。

※ 本会からは濱野堅照会長、岩田文有副会長、
 不破仁理事長ら百余名の代表団が開会式、執
 行委員会、全体会議などに参加し世界の仏教
 徒と交流を深めた。

※ 「仏教と二十一世紀の課題」をテーマとし
 ※ た今大会は、十月二十九日に各国代表が参集
 ※ し受付を行い、三十日に執行委員会を開催。
 ※ 本会からは、松濤弘道国際委員会委員長と櫻
 井英幸国際文化部長、入西智彦国際文化部次
 長が参加し、総会の議題、協議事項、役割分
 担などについて話し合われた。

翌三十一日は午後二時半から開会式が南天
 寺本堂で行われ、本会からの代表団百余名を
 含む、約八百名の各国からの代表が参集した。
 オーストラリア国歌斉唱、三帰依文唱和、
 会場を提供していただいた仏光山南天寺の星
 雲大師の挨拶、世界仏教徒連盟副会長の挨拶。
 オーストラリア政府代表、ウーロンゴン市長
 等の祝辞、各国代表のメッセージが披露され、
 濱野会長のメッセージは英語にも訳され会場
 の参加者に配布された。そして各国からの代

開会式が行なわれた南天寺本堂



開会式に臨む全仏代表団



チャロン・ウイスモル WFB 副会長に記念の揮毫を渡す濱野会長

仏旗・バッチ

頒布御案内

- 大仏旗 たて一四〇cm×よこ二二一〇cm 三三、〇〇〇円
- 中仏旗 たて九〇cm×よこ一三五cm 一八、〇〇〇円
- 小仏旗 たて七〇cm×よこ一〇〇cm 九、三〇〇円
- 手旗 たて三五cm×よこ五〇cm 八、〇〇〇円
- 法輪旗 たて九〇cm×よこ一三五cm 七、四〇〇円
- 仏旗バッチ 二cm×四・五cm 五〇〇円
- 法輪バッチ 直径一cm 一、〇〇〇円

お申し込み

全日本仏教会財務部

電話 〇三―三四三七―九二七五

FAX 〇三―三四三七―三二六〇



全体会議



世界各国からの代表団

WFBシドニー大会祝辞

第二十回世界仏教徒会議シドニー大会の開会式に六十宗派八万ヶ寺が加盟している全日本仏教会を代表し、更にはWFBパトロンとして祝辞を申し上げます。

前回のバンコク大会より四年を経過しておりますが、世界の状況は改善の兆しは見えておりません。広島・長崎の悲しみを無視し、核実験がいまだに強行されており、人種・宗教等の対立による紛争が各地で繰り返される悲惨な現状にあります。オゾン層破壊や地球の温暖化等、自然環境と科学技術との問題、そして生命倫理の問題から、エルニーニョ現象等による世界的な異常気象、さらには景気の低迷による社会的問題等、人類の課題はますます多岐にわたっております。今こそ英知の結集が求められているのであります。こうした状況の中で、「仏教と二十一世紀の課題」という大会のテーマは大変大きな意味をもってあります。

我われ仏教徒はブッダの慈悲と和合の原点に帰り、輝かしい未来と、美しい自然に満ちた地球を守る努力を続けていくことを、誓い合いたいと思えます。

全日本仏教会では、ブッダの願いを次世代に引き継ぐため、世界仏教徒の悲願であるルンビニー園のマヤ堂修復事業を、ネパール王国において取り組んでおります。お陰様にて考古学調査が終了し、現在、ネパール王国と協力し、神聖・崇敬なるマヤ堂の修復に努力しているところであります。今後とも更なるご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

最後に、意義ある今大会にご尽力いただきましたWFB本部と仏光山南天寺の皆様方に心より感謝を申し上げます。

一九九八年十月三十一日

全日本仏教会会長

濱野 堅 照

表団の紹介、世界仏教徒連盟歌斉唱、本堂前での記念撮影と続いた。

十一月一、二の両日は数度に亘り全体会議と分科会が開催された。一日の全体会議では濱野会長のメッセージが他国に先駆けて最初に紹介された。会議ではタイ国に開校が予定されている世界仏教大学への支援が決議され、また「仏教と二十一世紀の課題」をテーマとしたシンポジウムも開催された。また、次期開催国については、スリランカ代表からの自国開催案が採択され閉会式となった。

今回の会議では、経済・政治など様々な面で課題を抱える仏教国の現状と、それらに対して仏教が果たすべき役割について、各国代表から多くの貴重な意見が発表された。

また、会議を通して日本の仏教界に更なるリーダーシップ的役割を求める向きもあり、WFB日本センターとしての全日本仏教会には、今後、より一層責任ある対応が望まれていることが感じられた。

またWFB大会と時を同じくして、南天寺ではWFBY（世界仏教青年連盟）の第十一回大会も開催された。日本からは全日本仏教青年会、矢坂誠徳理事長以下、多数の青年僧侶が参加し、各国の代表団と仏教の将来について多くの建設的な議論が交わされた。

カウラ戦没者追悼法要

岩田副会長、不破理事長以下三十名が厳修

十月二十九日、澄み切った青空の下、岩田文有副会長、不破仁理事長以下三十名は、シドニーから四百キロ内陸の小さな町カウラの



日本人戦没者墓前で追悼法要

地を訪れ、第二次世界大戦の終戦間際にこの日本人捕虜収容所で起きた集団脱走事件の犠牲者二三名を含む日本人戦没者五四四名と豪州人犠牲者四名の追悼法要を厳修した。まず豪州人犠牲者追悼碑に不破仁理事長が花束を捧げ、参列者一同献花の後黙禱し御冥福を御祈りした。次に隣接した日本人戦没者墓地に赴き、岩田文有副会長を導師に追悼法要を厳修し、全日本仏教婦人連盟の皆様が準備された抹茶・桜湯を吉田昭寿浄土宗社会局長に献じて戴き、四国松山の岡田章敬浄瑠璃寺住職が用意された御詠歌を奉詠し厳かなう



墓前に花束を供える不破理事長

ちに儀式を終了した。

隣接の日本庭園長のリビライド女史も御案内かたがた参列され、当時の捕虜収容所の様子など詳しく説明して戴いた。その後日本庭園の食堂で現地の方々と食事を採りながら交流を深め感慨深い一日を過ごした。

日本庭園から戦争捕虜収容所跡地・戦没者墓地に至る道は、一九八八年の豪州建国二百年を祝して花に平和への願いを込めた桜並木として整備が進んでおり、我々一行も参拝を記念して一樹を寄贈した。

日本人が一人も住んでいないこの地が、豪州政府や現地の方々の善意で整備・保全されていることに衷心より感謝すると共に、一人でも多くの日本人がこの地を訪れ、戦争の悲惨さと平和の大切さを新たにしたいと念じながらカウラを後にした。

宗教情報リサーチセンター（財団法人国際宗教研究所、脇本平也理事長）開設

新聞・雑誌などの宗教関係記事や、教団刊行物・ビデオなどの情報を会員制で提供する、「宗教情報リサーチセンター（略称ラーク）」が十一月二日より業務を開始した。現在は一九八七年九月より一九八八年八月までのデータを提供している。

※問い合わせ

宗教情報リサーチセンター

東京都文京区小石川三十四一六

織月会館内

電話 〇三・五八〇五・六一六六

FAX 〇三・五八〇五・六一六七

ホームページ <http://www.rirc.or.jp>

仏教とマルチメディア 大蔵経テキストデータベース研究会

संगणिकीकृतं तैशोत्रिपिटकं

Sangonikikritam Taisotripitakam

大正新脩大蔵経テキストデータベース

【大蔵経経緯】公開開始。(1999-10-18)

最新情報

【大正新脩大蔵経】テキストデータベースについて

ダウンロード

訂正情報

よくある質問と解答FAQ

作成事業計画概要

寄付のお願い

寄付者ご芳名

Copyright 1998 大蔵経テキストデータベース研究会
このウェブページの著作権はすべて <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~sat/>

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~sat>

今回は、『大正新脩大蔵経』のテキストデータベース化に取り組みられている「大蔵経テキストデータベース研究会」を訪問し、代表委員の江島恵教東京大学教授、下田正弘東京大学助教授、事務局の吉岡司郎、戸田隆、師茂樹の各氏にお話を伺った。(文責 社会部)

※ 事業に取り組みましたきっかけ、現在までの経過をお話下さい。

淵源はそれ以前にも遡ることはできませんが、一九八六年に東京大学を会場に日本印度学仏

教学会の学術大会が開催され、そこで『インド学仏教学におけるコンピュータ利用』というテーマのもとにシンポジウムが持たれました。その提言の一つに「将来考えられる『コンピュータ大蔵経』に向けて、その作成のための準備を整える」が挙げられました。それを受けて、個人・私的グループが試行錯誤を繰り返したのちに、現在の「大蔵経テキストデータベース研究会」が、一九九四年度に、初めて国公立学校特定研究費を受け、東京大学大学院人文社会科学系研究科インド哲学仏教学の江島研究室内で具体的作業を開始。同年度後期に日本印度学仏教学会の承認を得て、同学会から独立して発足したのです。

一九九五年度以降、研究会はその事業を、日本印度学仏教学会の事業の一端として認められました。また東京大学大学院人文社会科学系研究科・文学部の支援のもと、文部省科学研究補助金(データベース)の交付を受け、一九九七年六月以降は事業に対してご理解をいただいた方々の善意の寄付金に支えられ、十全とは言えないものの事業を継続しています。また、一九九七年四月、東京大学文学部アネックス(別館)が新築完成、研究会は一室の割当を受け、東京大学大学院人文社会科学系研究科・文学部より公式に認知されました。また、テキストデータベースの作成の具体

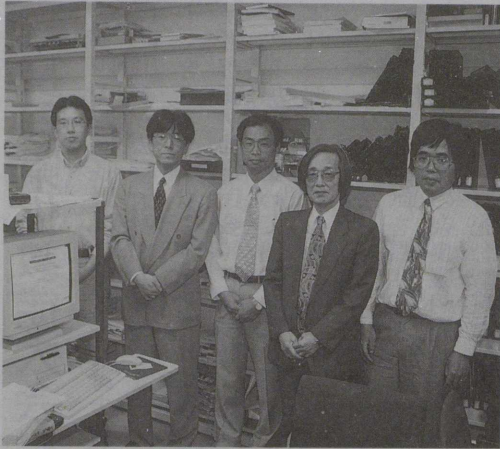
的作業は東京大学のみではなく、長崎大学教育学部早島理研究室、駒沢短期大学仏教科石井公成研究室が強力な拠点となっています。財政的・技術的側面においても両研究室を通じて多数の関係者に協力を仰いでいます。また、本年(一九九八年)三月末日にインターネットにホームページを開設。データの一部公開を始めています。

作業の概要について教えて下さい。

本事業は、全百巻のうち、テキスト部分にあたる第一巻から第八十五巻までを直接対象として、①基本的テキストデータベースの作成。②必要に応じた種々の拡張用テキストファイルの作成。③作成されたテキストデータベース等のインターネットなどのメディアによる公開。④利用者によって提供される情報の収集、および、それによるテキストデータベース等の一層の正確化。⑤以上の作業に平行して、入力テキスト形態の確定、外字処理方法の確立等の技術的問題の解決。以上の作業を行っています。

『大正新脩大蔵経』をテキスト化することのメリットはどのような点にあるのですか。

テキストデータベース化されることで得られる研究上の利便は多岐にわたります。用字や語句の検索や索引作成も極めて短時間かつ正確に実行可能です。また複数のテキストの比較対照



大蔵経テキストデータベース研究会の皆さん
左より、師、下田、戸田、江島、吉岡の各氏

なども容易に行えます。さらに従来では考えられなかった新しい研究分野が開かれる可能性もあります。

『大正新脩大蔵経』は過去の仏教・東洋文化の成果を収録したのですが、それらの諸文献は歴史上のそれぞれの時点で、各時代・各地域の文化の根源として読みとられ、新しい文化の創造への原動力となりました。これは、現在においてもなんら変わりありません。今回のテキストデータベース化は、各仏教文献の読み解きを支援し、新しい発想の誕生、新しい文化の創造をもたらす契機を提供することに他なりません。

現在の状況については。

ホームページ上では、まず玄奘三蔵訳『大

般若波羅蜜多経』六百巻を公開しました。その他ホームページ上の「公開文献目録」にあるような文献を次々に公開しており、広く研究に役立てていただいています。ホームページの閲覧者は国境を超えて延べ一万余千人にも上っています。

また、台湾ではこの二月に十分な資金援助のもとに「中華電子仏典協会」(Chinese Buddhist Electronic Text Association, or CBETA) が組織され、個人、種々の団体で行われてきた大蔵経入力の結果が集約され、統括されつつあります。そしてこの協会から、私たちの研究会へ協力しあって作業していきたい、と申し入れがあり合意しました。現在は協力の具体的な内容について、その体制づくりを協議しているところです。

事業を進める上で留意されている点は。

『大正新脩大蔵経』版元の大蔵出版とは、底本、入力方法、完成したデータベースの公表などについて、理解を求めてきちんとした形で覚書を交わして進めています。

また「正確なものを少しづつ作り上げて行きたい」という思いがあり、その趣旨で同様にデータベース化に取り組んでおられる方々の成果は尊重していきたいと考えています。また、私たちはあくまで『大正新脩大蔵経』を忠実に再現するという立場で作業を行

っています。そのため、本文の誤植も勝手に訂正することをせず、そのリストを別に作成することで補って行く予定です。

事業経費、今後の展望を教えてください。

『大正新脩大蔵経』のテキストデータベース作成事業は必ずしも順調ではありません。技術的には優れていても、財政的にはきわめて脆弱です。全体を完成させるためには、今後さらに多大な事業資金を必要とします。

また事業期間は、一応十年と設定しましたが、底本『大正新脩大蔵経』の刊行期間はわずか十一年でした。その単純なデジタル化が十年以上かかるというのは、あまりに悠長すぎます。今後は財政的支援を各方面に呼びかけ、皆様の温かなご協力とご援助のもと、事業期間の短縮と一日も早い完成を図ることができればと考えています。

『大正新脩大蔵経』テキストデータベース作成に関するご支援のお願い

仏教及び東洋文化、また新しい文化創造に関心をお持ちの皆様は、この事業に対して格別のご理解を賜り、資金のご支援をお寄せ下さいませよう、お願い申し上げます。

お問い合わせ

大蔵経テキストデータベース研究会

〒113-0033

東京大学大学院人文社会系研究科

インド哲学仏教学研究室内

電話 〇三―三八―二二―一一

内線(三七五四/八九五五)

長野県仏教徒大会

第四十四回長野県仏教徒南長野大会が、「現代に生きる仏教—いま生命あるはありがたし—」を大会テーマに、十月三日午後一時から、長野市篠ノ井市民会館を会場に、溢れんばかりの参加者を集めて開催された。本会から渡邊社会部長が出席した。

法要、式典に引き続いて「南長野仏教大学講座」の常任講師を長年担当されてこられた駒澤大学前学長の奈良康明先生が「慈悲に生きる」をテーマに記念講演を行い、最後に大会宣言文と次期開催地を発表して閉会した。

埼玉県仏教徒大会

埼玉県仏教徒大会が、「伝えよう広げよう仏の心」を大会テーマに、十月十五日午前十時から三郷市文化会館大ホールを会場に、多数の参加者を集めて開催された。

法要、式典に引き続いて柴又帝釈天題經寺住職、望月日翔師が、「佛性について」をテーマに記念講演を行い、地元三郷市指定無形文化財「里神楽」の舞が披露され閉会した。

全日本仏教婦人連盟大会

十月十六日午前十一時より、ホテル日航東京で、第四十五回全日本仏教婦人連盟大会が

開催された。

第一部は、一條智光名誉会長を大導師に、全日本仏教尼僧法団有志を式衆に法要が厳粛に営まれた。次に大本山善光寺大本願法主、鷹司誓玉台下、一條智光名誉会長のおことば、友廣和会長による信条唱和が行われ、櫻井英幸本会国際文化部長の挨拶へと続いた。

続く第二部は、島田喜久子理事長による開式の辞に続き、来賓挨拶、島村宜伸元文部大臣による講演、清興が行われ盛会であった。

事務局録事

十一月

四日 ネパール首相歓迎会出席

五日 神奈川県仏教会祝賀会出席

ネパール首相歓迎会出席

六日 局内会議

九日 林亮海元副会長本葬儀参列

十日 ルンビニー委員会

十一日 国際仏教興隆協会祝賀会出席

十二日 法律相談室

十三日 加盟団体代表者同和研修会

十七日 大阪府仏教徒大会出席

十八日 都道府県仏教会代表者会議

教化セミナー

浄土宗差別戒名追善法要参列

十九日 日宗連税制シンポジウム

二十日 局内会議

二十六日 春見文勝元会長本葬儀参列

法律相談室

哀悼

春見文勝師（全仏元会長）

十月十七日遷化 九十二歳

臨濟宗妙心寺派元管長

林亮海師（全仏元副会長）

十月十九日遷化 九十三歳

真言宗豊山派元宗務総長、同派集議

東京都仏教連合会元会長

1999年版

9×14cmのポケットサイズ

全仏手帳

定価700円

お申し込みは
全仏手帳係